

049

災害弱者に目を向けた住民共助型防災対策

取組主体

豊橋手話ネットワーク

従業員数

32人

想定災害

地震等

実施地域

愛知県

- 大規模災害時における障がい者向け情報提供の充実を目指し、「避難所でのお知らせ絵カード」等の制作と普及活動を実施。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

絵や文字で情報を伝える「避難所でのお知らせ絵カード」を作成

- 阪神・淡路大震災発生以降、聴覚障がい者の防災対策が注目されるようになった。愛知県豊橋市の聴覚障がい者協会や手話通訳学習者の会等からなる豊橋手話ネットワークは、阪神・淡路大震災の復興に携わった講師を招いた学習会をきっかけに、発災時の聴覚障がい者支援活動を開始した。
- 地域の現状を検証した結果、聴覚障がい者の防災訓練への参加率が極めて低いことや、聴覚障がい者の防災対策を進める上で、福祉行政と災害対策の担当が分かれていることから行政の協力を仰ぎにくいという課題が明らかになった。そこで同団体は、地域の聴覚障がい者が様々な防災に関する行事に参加する機会を増やし、情報提供を充実するための取組に着手した。
- まずは、地域の人々とのコミュニケーションが大切であると考えたため、絵や文字で情報を伝える「避難所でのお知らせ絵カード」を作成した。「避難所でのお知らせ絵カード」は、避難所で頻繁に取り上げられる事柄・場面を絵と文字で説明したカードであり、避難所で現在起きている事柄・場面について、状況を正確に伝えるためのコミュニケーション支援ツールとして活用するためのものである。

カードのポイント：日本語、英語、タガログ語、ポルトガル語の4か国語対応
※韓国語、中国語版もあります。



複数の言語に対応しており、聴覚障がい者だけでなく外国人に対する情報提供にも有効

- 「避難所でのお知らせ絵カード」を用いて聴覚障がい者と共に地域の行事に参加することで、地域の人々に音以外の情報伝達手段もあることを理解してもらえるよう努めている。本絵カードは、豊橋市以外の自治体からの要望に応え、フォーマットを無償で提供している。これまでに、愛知県内では常滑市、知多市、岡崎市、小牧市、新城市等が導入し、兵庫県や愛媛県等、他の都道府県からも導入の申し入れがあった。

聴覚障がい者と地域住民が一体となって活動できる体制作りのために工夫を凝らす

- 「避難所でのお知らせ絵カード」の他にも、聴覚障がい者と地域住民が一体となって活動できる体制作りのため、以下の活動に取り組んでいる。
 - 聴覚障がい者向け自主防災ガイドブックの作成と配布
 - 聴覚障がい者やその支援者が避難する予定にしている避難所調査の実施（聴覚障がい者が孤立する恐れのある避難所のリストアップ）
 - 自主防災組織や県又は市町村が主催する防災訓練への参加

国土強靱化

- 聴覚障がい者の避難所受け入れ訓練の実施
 - 大規模災害発生時の各支援団体との交流事業の実施
 - 「防災バンダナ」の製作と普及
 - 「ボランティア手話通訳ビブス」の製作と活用
- これらの活動を通じて、聴覚障がい者と地域住民の交流が進み、自主防災組織等の組織が積極的に同団体の取組へ協力する機会も増えている。
 - 同団体は、各地域で開催される防災訓練に積極的に参加しているほか、令和元年 10 月には、愛知県の大学と共に防災イベントを開催した。同イベントは、国土交通省、保健所、保険会社等との共催で行われ、幅広い年代が参加し、聴覚障がい者の防災対策紹介コーナーや聴覚障がい者を対象にした災害時の医療に関する講座等を通じて、関係機関、関係者らが相互理解を深めるきっかけとなった。



手話通訳ボランティア活動を行う際の視認性を向上させるバンダナ（左）とビブス（右）

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 同団体では、福祉実践教室や手話体験講座等の地域の福祉関連講座の教育項目に「避難所でのお知らせ絵カード」等に関する項目を取り入れるほか、行政機関や社会福祉協議会が主催する行事・大会に、「避難所でのお知らせ絵カード」等を紹介するブースを出展することで、発災時の聴覚障がい者支援の普及に努めている。

3 現状の課題・今後の展開等

- 同団体は、「避難所でのお知らせ絵カード」等を豊橋市内のすべての避難所に寄贈したが、実際の訓練で活用している自治会は多くないのが現状である。今後も、活用してもらうための周知、啓発活動を続け、災害対策本部の運営に関わる多様な機関への周知を図る方針である。
- また、大規模災害発生時に配備される非常用通信設備は仮設電話が中心のため、聴覚障がい者や高齢者に向けた仮設 FAX の設置の要望や複線化した情報伝達の仕組みづくりを提案していきたいと考えている。

4 周囲の声

- 聴覚障がい者支援の意識が高まった。手話学習を始めてみたいと考えている。（防災訓練への参加者）
- 防災訓練の中で、まだ聴覚障がい者がコミュニケーションを取りづらいと感じた場面があったため、今後一層の啓発活動が必要であると感じた。（防災訓練への参加者）

担当者の声

- 地域ごとに取組方法の違いはあっても、他の地域の取組事例を知るとは、自分の地域活動の参考になります。また、良い取組事例は他の地域の方にも参考にさせていただき、その過程で情報交換することで、より良い取組にブラッシュアップしていきます。そんな思いで私たちは、積極的に様々な場面に参加するよう心掛けています。また、他の地域の方からの照会に対しては積極的に応えるよう心掛けています。私たちの取組に興味を持たれた時は、気軽にお声掛けください。

問合せ先

豊橋手話通訳学習者の会 E-Mail : houtukai2016@yahoo.co.jp